

第33回（2001年度）サントリー音楽賞は

いちやなぎ とし
一柳 慧氏に決定

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤剛）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第33回（2001年度）受賞者を一柳慧氏に決定しました。

●選考経過

1. 2002年1月14日（祝）午前10時から東京・丸の内の東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月13日（水）午前10時から、東京・千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニにおいて選考委員9名により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第33回（2001年度）サントリー音楽賞受賞者に一柳慧氏が選定され、同日午後開催の理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円。

●選考委員は下記の9氏。

礒山 雅・岩井宏之・岡部真一郎・白石美雪・武田明倫
丹羽正明・根岸一美・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

1933年生まれ作曲家の一柳慧氏は、21世紀の最初の年の1年間に、10曲に上る新作を発表している。これらの一連の作品が、実にさまざまなジャンルで創作されていることは注目に値する。混声合唱、ピアノ五重奏、オーケストラ、邦楽器、正倉院復元楽器……など、一柳氏は、どの分野でも同じように旺盛な創作意欲を燃やし、それぞれの分野の表現法を尊重しながら、きわめて密度の高い作品にしあげている。このような一柳氏の創造の基本的な態度は1960年代に前衛音楽の旗手として音楽の根底を問いなおした経験、そして80年代半ばから90年代にかけての室内楽曲や管弦楽曲の作曲家としての技術的練磨が反映しているように思われる。

一柳氏が21世紀の最初の年に作曲した2つの作品に《架橋》というタイトルをつけているのは暗示的である。もともと一柳慧という音楽家は、前衛と伝統、西と東、空間と時間、作曲と演奏といった2つの極を<架橋>することに生命を賭けてきた。《架橋》と題されたピアノ五重奏曲オーケストラ曲は、この作曲家にしか作曲できないすぐれた作品である。ピアノ五重奏曲は、作曲と演奏の間を<架橋>する作品であり、豊かな響きと多様な音色にみちあふれている。《オーケストラのための架橋2001》は二元論的な対比や対立は姿を消し、さまざまな要素が重層的に重なりあいながら進行していく。

一柳氏の今日的な視点による創造活動の成果は《交響曲第6番—100年のちに》にも示されている。ここではソプラノの歌うタゴールの詩が、オーケストラの響きとみごとに対峙している。大岡信氏の詩による混声合唱のための《ミチザネの讃岐》は、1988年の同じ詩人による《ベルリン連詩》以来の力作である。

<略 歴>

一柳慧（いちやなぎ・とし） 作曲・ピアノ

1933年神戸生まれ。作曲を平尾貴四男、池内友次郎、ジョン・ケージに、ピアノを原智恵子、ビヴェレッジ・ウェブスターに師事。

49年および51年音楽コンクール作曲室内楽部門第1位受賞。54年～57年ニューヨークのジュリアード音楽院に学び、その間にエリザベス・クーリッジ賞、セルゲイ・クーセヴィツキー賞、アレキサンダー・グレチャニノフ賞を受賞。

61年帰国し、自作および日欧米の新しい実験的な音楽の紹介と演奏を行い、さまざまな分野に強い刺激を与えた。67年ロックフェラー財団の招聘で渡米、米国各地で作品発表会を行う。76独政府の招聘でベルリン市に滞在、欧州各地の音楽祭で自作の発表と邦人作品の演奏を行う。

今日まで世界各地のフェスティバル等に招かれ、国内外で作品を発表するとともに、ピアニストとしての演奏活動も意欲的に展開している。

尾高賞をこれまでに4度受賞するなど、話題作を発表し続けている。また、現代音楽祭

「インターリンク・フェスティバル」、シリーズ「音楽の現在」（神奈川県民ホール）等の企画構成・音楽監督、東京インターナショナル・ミュージック・アンサンブル芸術監督もつとめる。

現在、神奈川県芸術文化財団芸術総監督。

受賞：尾高賞（第30回、32回、37回、38回）

中島健蔵賞、毎日芸術賞、京都音楽賞大賞、フランス芸術文化勲章、紫綬褒章。

<2001年の主な略歴>

- ・ピアノ五重奏曲《架橋》（世界初演）（3/23 東京文化会館小ホール）
- ・一柳慧作品演奏会 Vol.1 管楽器の世界（7/3 サントリーホール小ホール）
- ・ソプラノとオーケストラのための交響曲第6番～100年ののちに（委嘱作品 放送初演）
（11/1 NHKFM）
- ・オーケストラのための《架橋》（委嘱作品 世界初演）（11/3 仙台市青年文化センター）
- ・《ミチザネの讃岐》（委嘱作品 世界初演）（11/17 浜離宮朝日ホール）
- ・正倉院復元楽器と西洋伝統楽器が創造する現代音楽<千年の響き>《心の視界Ⅱ》
（委嘱作品 世界初演）（11/26 京都コンサートホール、11/28 札幌コンサートホール、
12/1 大阪いずみホール、12/3 東京カテドラル、12/4 新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ劇場）

以 上